原やわ秘抄
一條兼良卿ノ作
元亨と申すれこの人
第五初之巻
弘文

源氏和秘抄

一 まつ見ばかな

いつまでの印門の名くらべ
四門の花延喜の門とにたりとぞ桐壺の
いとゆゑ〻〻しき藤壺後涼殿と
上の御門は摸へ光源氏なれば西宮の左大
臣なり右近の中将は頭中将なり此人な
ほされ給ひ紀伊守になり給ふ
みやうりの夫は常陸宮なり
光源氏は人なり世に光源氏
是ばかりの人なり文安元年と同

九曜文庫

中なか文女御らの色深の人なり
更衣とは寝殿のつまとなり御門の后の
次くらゐを行時もいこれりてあれは
ほかへなりくわうお服とめさすて
よ紀の服とめ給也文朔よめつてを給ふ時
五もみ御たてまつく色をもせさせ給ふは
いやとふらいめ一ふま字

色んしとなれ人なり　思ひなる
時めきすり　時にあひてもくふさかえたる
笑さ御まつ　めのまさまき　めすらわせつまへく
いとあつしく　病ありひくたる
冥ん学もちめ　くまやうの　御事なり
うらみ人　あしく　なり

もろこしのかつてはれはらり　庵の人もやまひの　申なり
わら来なりさんとなれ　くりまり北海　もてくしき　こころり
まゆふかう　きくうて　まてこそり　上をめしられと　そうかれ　なるをふ
まうのわをほふ　さらのわ　なり　そう妻とあらさんいなれは　なるから
ちくくのすとふかうよりやをい　あしらわふくるかう　まもとすもあめふ　けと御まとと　わとむとくれ
人のならと　見わらずさ
まうかれいてにいやとひひく御妻とおりまうと　ふかうゆへすきんとのくくやとまでまかす
もかしさうし　さうしとい　かうとこうり　まれ　いれいかい
うちうしわさうのきてうしこれみちはあやしまり
三磨のみこの御門宮雛奴の女御とあるの　中宮と御わさとあくかうてくつめ后とも
まるめしいし　まさめ[illegible]　あめ　はかい　とはいたされ
すまひもまこうさ　ことをしとうり　あやまにいそて色　なり
てくる皮のきんし　ふまる御りけて　まうて山車と御田妻　かのの　御門のちちうまつりう　若女御の玉

きぬは蔵として由を得て行方の
てらまとゆきされそうかなり
ねさめあてまよふ家
ゆうきうの
こゝろよう
すゞしさとおもふところ　出来さるさとはしらりかりとりへ
かえて
なり
きのふはまれぬ　たかまとれくかね
正三位なり
ゆるしなり
ほのかにひらく　さくとひらし　ゆきいの
やう妓　ゆきいとふ人のたえつゝはゝ常帰とは内裏よりか
　うきいのめ春とふたえつ大内つすけるとやすみ申なり
　中しゆきい乃常帰と子女も王乃
　新古此のことりて見てきり
ゆきえせ　らもしく
ゆまてしかくと
いうかなり
かえいとこ
ゆきなり
もしまゆ蔓と　見まへはかくなり
むまきくしまゆ　れんはくら
いはまり
まはるせ
なみなり
そほとは王と見へと　まわる世
あしもを
まめなと
ゆまえつ
かくいつみあまさのんあり一つといふこと
ちまていくつまと
ふまいろよくとまへいさうれまとそ
いつかれ
みちと
御作そく一ふる也　女房のきぬつき
ほかなり
流にし西の
みさいに
其くしくろ
つくりなり
ちやう
まかり
なりて
ちやうなきくとて
つゞりことくも
あり
うみかけの
くさくなり
おいとの作りせんさい
四庭のつゝりは草花
うゑとまろ事なり
きく造りくねまりかりと使はほらひへつりてゝうしのんさしと
よそ此人なしをまつしも申白楽天詩をつくれりなとかなり
唐の玄宗
の揚貴妃とて今
ちいしの後からかゑしく
かひく近のこくさなり
まつしきしをとかとし
揚貴妃のかゝみの人ことみせ之まゑひてあれ
ちらいさ人へあゝ時しま作まかりとしたまり
玄宗とは唐の
みかとの御子なり
　ゆえのうかとかく
志寄りかんさし
女のうみ
あけれなり
揚貴妃とか
太液の芙蓉未央の柳
名なり
長恨哥のことくあしきなり
又忘くしく池の
朝柳の糸のたはゝ揚貴妃のあまらかあつしかり
東落の
果しましいあの宮も　やうと
かつら
ほうかなり
らうなりけるる梅のくと
うらむ
なかつせや　寄進の日

みせのかはらもとゐ　そのかみ秋ややとて内裏を出いりて京へおもむきかねの門より右との
侍さまいつかしこらは右との日
御いかなりきてように参りまとい侍り　凾のおつしるり
あさうまなわ　内裏にめせんさてまうけあり　あさまつまと
さらすのそらてみめく　そのかたとぬするよろしう
むかしまくいまとまり　はや　いまはしらぬ
はやぬらぬ　さやくなり　いとゆらしう　いまくしきなり
さうまくまりおき　よきにも
うちのをのきにとくえてあへ　かかはまさのみる
おくらくの　よくり
しきの　こまのものまなのよにひひにいくえてあき
ものそらしとけるなり　こそもなり　宮内御門かいま
ちうろぬらむ　七条生蓮まゐりてきうり
をあんとゆくりいつせのあいは　侍
やとすまゆり　屋まで侍

る國りうひつけへく　御子　御母
人とさうすゆ中なり　よりり
ませたれ　さそらくい母との人なり　までくくん
まるての寒くてわりしよう　すくえそれしとよみち
かくとありれなりしなり　蔵成りなしさてまつる
御門の御子の生く人のかく深中の人やとまうで
されまの内侍りそしもち　三代宮つくへ
定家　のまかぬ　硯ち
硯硼　よろしう　うせいわらく　よりのく
うれうてやひりう　はるさ　おとるう　中の
人をまよろしけるなり　清書さねの遊ぶ　かぬさせあなり　和きと
なりさひ　かつき　なり　かせし　名乳もとと　ろかし
ふそりなきまう　不遇くひゆや　まつれうきの
井きち　まつりのかうりのおほけつ
なりりう　上東門院の十二人の内侍
さらきりなり　中宮の人をなくはつはりとらぬ
ぶくさうね　やいのまししうて
まつりくさうちり　御母しみてて　こは
立上のむらしけりつる　くりんさの御在くしんの宿には出
おそなり　うくまりまゐらせ

色吹いま乃太白人 大義乃前人
貴人まする 世ひて さつひ
世から世のはかま 色ひおを十は
もの橋しり 石乃けさ九鳥
義人とうまする
おもひのあの 太ゑれ
ゑ仰し貴 古也
世来み十すし 流し經羅
小きりひ 去羅 ともさ い

二
二の巻
きりつほの まきたくを 二たく
なりひひの もさの本まつ
名のとくしりいひひのれあ十 すたと
かりひまつ 子くろへと
海見まら行ろ おし貴
又らしひ かも野のお將
さつひより生命元く
御かり上 色染 人のくと
おあ 御物いて 消よそ也

いやさくのことなり　なまくま　かやうやといふことなり　すみ　人の名とすなり

あせん　わろき人なり　むさく　わかやくとふみまりしきといふ文字をこいつまかなくといふも　便られる　うれしけれ　あかさいたるが

わりわれそこら　られたり　あかし　なのさん　さしたり　えん定

え(?)かしまと　いふ　をれらん　おれそう　うたなり　にら絶ち　二つまち　候まじく　もと

なかり　わく　ほとおそ　なり　しれ物　さしやと　くしたり　おひさる

ひとり名ちこれ(?)を　おもいかたち　年ことのはそら(?)やさしくのうけける　いもあとふまのらくはかやみ顔なり

あかれと　いふなり　かうせ　一つなり　おかめてのり

けりやうのこともあるとふなり　思ひそさ給宮　かりひとつなり

うれの(?)家　ちまたなり　なかへ　はそうらてなるさかの人なり

まりかなり　あまりなり　もしらい次　けをしくらあらね　人なり

なる候でんむ名跡　なりまんたら　まろふんなり　めのねさし

ほん(?)の御内にほんしやうし　かいくつなり　さわやかなり　あきつしき

そのうまと　ふなり　御かう筆　大のたなり　おつさまうさ

おうさ夜に参りまちみ文字すると書ものゝ中なり　よろ色　けりふ　なり　ちよくり

(?)し　文とくにてよく　えらびておくなり　さへなく　りんきうた　あり　ことうやま

おもうか中と　ふなり　もさうされ　りんきうた　ふくしきし　いへうし

夜のつまと　ふなり　あはつうま　おれくしき　こゝろなり　ちかれ　ふかり　ほん

よせうり文がさなく　かれなりなり　我もしく寒　けうしかはぬなり　ゆすやかのね田なり

ねちせの御書(?)　ようなぬ　そんみ　うしく　やさしき　みやう

はなる　えつもかに　なり　海路　海の道　なり　あさこたち

おまつの(?)し　いふまうとふ　うちひろみ魚　ひつらそくられそ　あまの文ものひとをうきて　さうしとふなり

そらなきる ひとめちかう なかうなり きれくみたり さくしめるを ゆきころていふ

しかのゑ なかれなり 我 おくせは雲 かつらなり

あ色さる 人をしく いふこそしらへ いむそら行る たくしく いふなり

ておつく 背ともれ見とらなるの まことに見ゆなり あるくく まことに たう字

川見く つらをこそ 人をさらく 見えなり さらしみ 見しは人と あらはれ

けなひまく けをしまい したくくへ えさや山見え やみこ見る わかうなり

さいふよ 何事なり かへをよし さいくもあちらいの こころなり

祇さらに さいうて心ひきの うしも将さしすて わされくきえ

あやかれ これなり あくさうに 知らし見す よろしくと

もま遠もれ 此まてさらのと 心つくらそう 花さら縁ら舞

やそりわする花まかく 人色りなるぬ 御んうとふん なり

御のなくなり

わうきつなく ほくは ちかきなり 世をちうて 中ひと ふくなり

くさひ 草のさまを みかなり 我みちのきら 京の こふなり

世をくしく なれ きうま なり うひやう 内のやまひ なり

さくむつのさき色く ひろとなまのつり 六月の をくれのうちすな わなり

世くつきれ みもつき しやうふ あなあくし わくしきと ふくむなり

えれうと たりのぬなり うつきまいつて 文地のいうれと

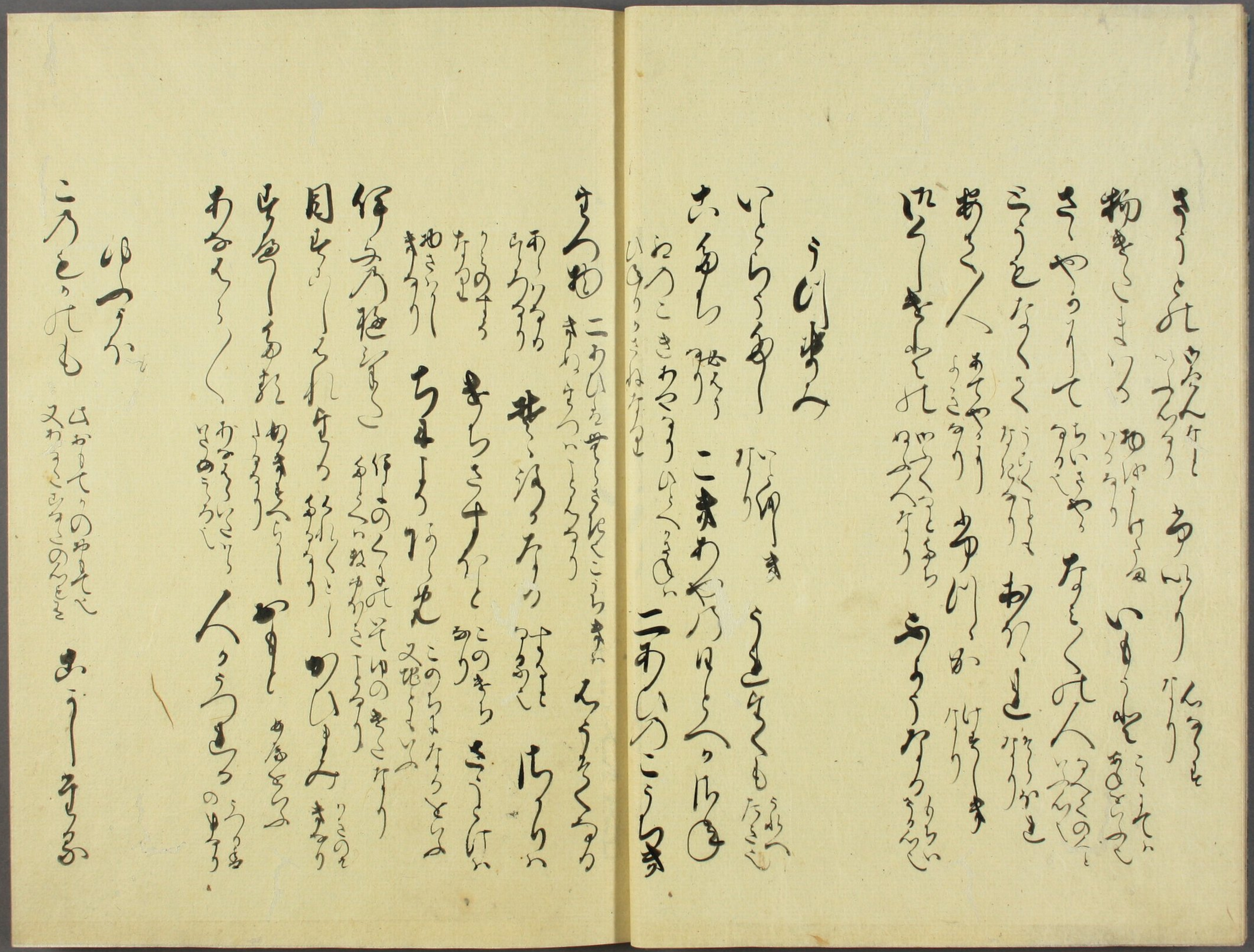
海見人 まとしま 人なり あつ海 あなりしか ましまり

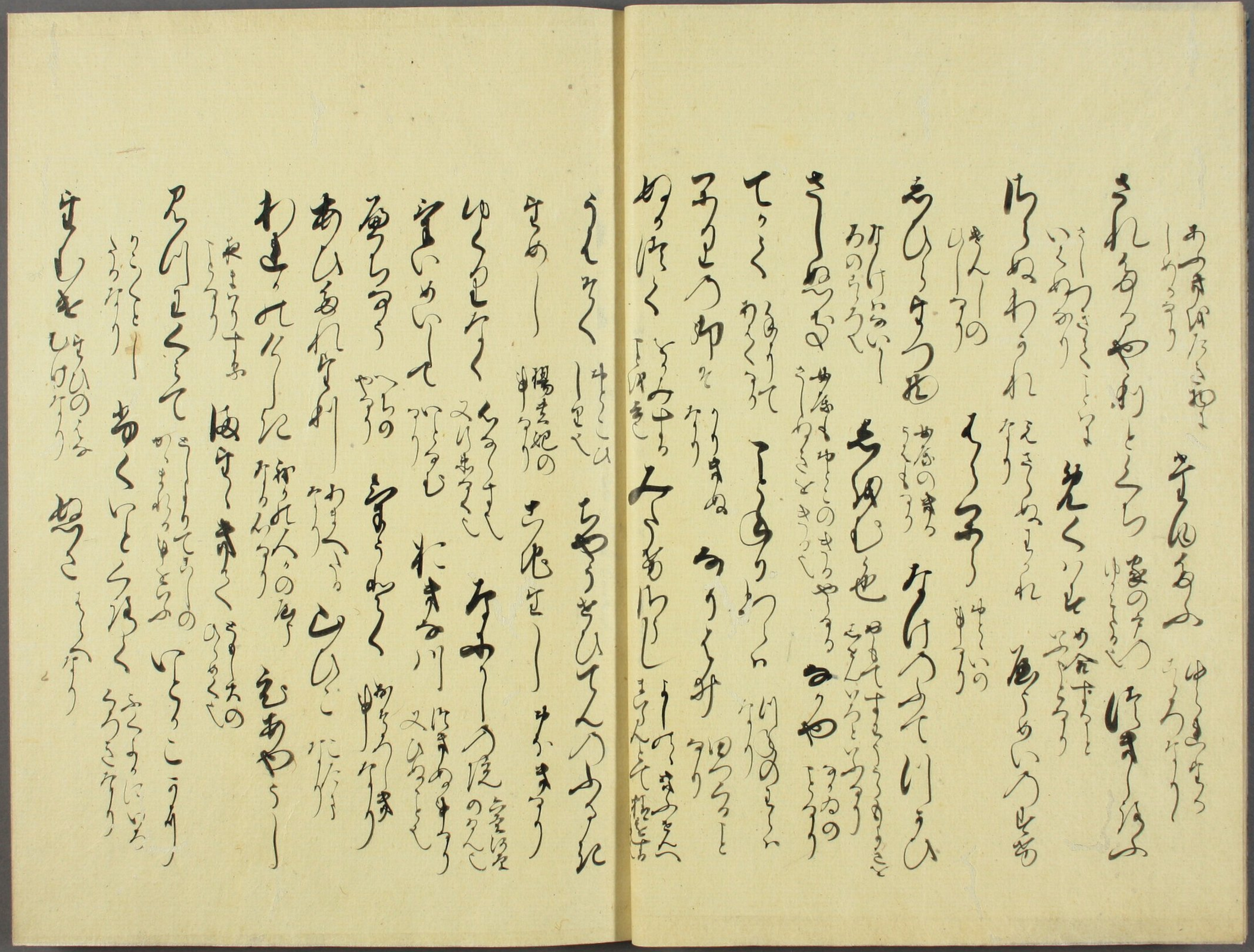
なかかとも 天一のくらさらの かくといふなり 中川 いまの京極 川なり

しゆしま きくしろ しきなり ちまし 四方と いふなり

ちひらひなる もれまつりて ものといふなり 世つうちまて

ふるきつ こともなり あくつうまて あてくろりろつき といふなり





三

まつむしさんに

わかやまに [illegible] あめし寺 くりまてれと

あつまりし [illegible] 七まいと

粉河寺 [illegible]

さつきの [illegible] かつかり [illegible] 六位の人の [illegible]

山あれなれ [illegible] 伊勢参 [illegible]

東にさけて こえん [illegible] さくらま [illegible]

[illegible] くまの 百姓国 [illegible] 一つくの [illegible] 仏の華

さこすれ [illegible] かりて [illegible]

かちかま [illegible]

たきの川の魚 下[illegible] なかりし [illegible]

あの川ま [illegible] さくらの花 [illegible]

みひ魚のかりやかの [illegible]

一ふくひ [illegible]

十ふつしも

ほあさ [illegible] わんちのりや [illegible]

人倫 [illegible] なみおこりやま

[illegible] なるみちは [illegible]

[illegible] 御さやとも [illegible] よる御ひ

[illegible] さくりつり [illegible]

えひの くらゐの名なり 志て[illegible] やもいくぬよなり

生海子すれ なりつゝ 不[illegible]まで やうらの[illegible]

行人まの何たと ほけくいひやむし ちひろくまで[illegible] ひとされのあくの たくわうり

ならさしのもち すらろれてつきと 以ふ 乞そく らなんかしや のうとものと

以下なり 多なり なしなしすわく くらいさんの女[illegible]をと あけしたうらしとうし

なり たいはうへう 女の[illegible]りりいま 物かものぬとうれものあく

[illegible]や すかやかり いさうれ人のされなり

あきんかさいのりね さうのうれ なりあり さと[illegible]まて

しほく さそらいあらぶかりわきり しら[illegible]わかくえゆつかり さうりもく

やをらくと しけなり 杉うし色 お杉の[illegible]

うすれのらい[illegible] きさりのうらそ つくりら衣なり きうまく[illegible]

らとくし[illegible]人をいぶ くし[illegible]かの御いまさ

すまうなるやらんなり みちのくまいみ 多んしと いふなり

おさいうくしまれけり いまやう冬 くるなる井や らうらひとの井の

あかひなり名世多よみうし かのおて そうまへきと

いふうらなり

不ひのなり くれるめへいふなり 白ひるめ いうさんなり あめのかうり

初ひ人 しりかう たこ生うか 月なかま

あらうとし七れ世よい生らくなり うえ本 ふまきる きかなり

かう[illegible]れそこ のんくいものて[illegible] さくられ かそらすこ

かりてらうくちん十すりと[illegible]をとてつはうらいかさ[illegible]

人のきうさわし 重いらくら[illegible]るま 生けのまきみもう 人女よんさしある

所業をみんそれすりのかみ水を入くされてめ御覧し
てんくまもとしりせんそてすへをとりて望りてハい
ちくられとしうとさいのやまかすめしけまはゆすてすみて
ぬすりきりその内女のかゆかし　細工して作りまとろみまれ
やもじ人々すとにく見ゆの作りきよ
わしかへし　くしの名なり

四

もみちの賀

若さく侍　三条若君やまおり　さかく　東の御花なり

ゑい　右衛門とまもひきいをかへしまぬ　かさてん

りのしゑ　りまとのんとはる此看すりのとの中より作るのの

いつまの色子も海さう出てを似の思ひ出の与えたるさ

あしり　かるし米なり又さとおりたりう　御米さん乃緒

ゑかおのこやきさ乙るの元さらはとるとこくして　も海らて海

右大の第なり　筆れくさ　東の方なく大利

かひし侍　去海隣にかひしろそのまれやまあらみを申さ

いらさく　よまさ人かり　つまん西い　去海隣の帝し

かりおる　筆まいりおやそれをしそれりわ年さな

てうらい　小朝拝なり正月百の事　りやらふ　左り後なきの事

ありさん　西りけるまさこかうさめし　さんさしよ　さんの大利

うきそうけしのうくしうら米すいてり御をぬきてまぬつりきえし　まちうてそわ　野らしそうの　侍

請さく　とのてし　ほそ海くさり　ふくの名なり

うねへ蔵人　まづ女房の名也　ゆゑつりて　ゆつ出ぬ世まり

うち麿丸人　ゆゑつうての人ハまうハなひのしりんの御まと　きまし

かそかり流　葉のかつきうりかりの　うゑとみけいかやうり　海をも　ますつう

うんめいちん　世ハむらよ御侍まし（御世）　うきしみ緒

ゆうとの人也　むしかのさ海や　ふかのおつまむろうり

五

むしのえん

多賀のえん　花のえんまいりんみんとえて好を比らときてつる文也

左のえんの字とさくりて怨之　天皇あり　たくしなる事とらへし

ちんめん　二番しやの事　うたちんのほうとれ　ほそとのへ

きうつうえ作り　魚くさし戸　全くさし魚つ大針

すさめぬ　あひとぬれり　きそみさぬなり

ひおつさの要やくこまいにとふすてはみくなくの　あつ麿ハほくつれ丸人へきさ

いかてさらくすむまおくひむきひよ世をひさき文字の

早やら良たれめうちかくて　[illegible]

きうつき　庭つくりまめつ紐ハおくて　さらくしれなき

なり　[illegible]

乃みつり　弓乃川丸　小ゆとの猶也

さくつ乃うしれまぬ流す御し　さくう色つくしおれ御し

えむそめ乃志くつき　志りいとけつく日記あめ

角川よ下つきつ　志りゆくゆハ次まつくろ時乃中也

あきれあつあかきみせきうき　あきれハあさやき文字とくの

[illegible]

わひまく　まひくらや　あつまの国と　[illegible]

[illegible]

六　[illegible]

世平つりて　[illegible]　さんくろ　[illegible]

[illegible]　御[illegible]乃日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

かさん　[illegible]

[illegible]

人將乃かりの[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

おかしらん　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

いう[illegible]　[illegible]　野乃や　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月一日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十あう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十又 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十八 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]川　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みあるを　きのふとし　うこかさ人　やろくあるを
つりしかひの　ふひいなるのいこと　かりあこ
みたこなり

十八　梅ヶえ

えんきかなてなりうめとりもとのきんちり
えんきうの浦いまあ　八重の梅ちるさの雪
京人なりまれかとつりまるんと　ゆちりて
えんちんを前まてうていと　くまくくかりつく
ちつり　わえ　みのん
やうやまるこ
あのかなりも　ちりのうちるるやりえをきを
えるちりきうちりょうひくしてきうしし

行くこいあすきと　ほちりもたりまし　昔の
わさくなくとかうていつと　やうりてうを
まるのようにうてをとふと　えりうひ　さし
二てうとひつて　あして　うての文字とてをなり
おれこもんのきの　きいをあり

十九　為乃うつは

えんをれかもうを　ちんをれを
まをふうのもしいかをいと家のもいちと
ちやうしなる　ちしそなあると　くんあり
四月いなを仏ようぶりあひをちとと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年人のわとすりのくれんこ　ゐを井乃法
まうも　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
やしとなきし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
ゑ田ゆ　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
一乃ゑう又八のゑも　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
又のゑ人ゑも　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
又ゑちうくしやう　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
にうのしも

廿一　ゑしわし

まつ　ゑしわし　まつたきんこ　わるを
川ゑ　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし

廿二　撰笹

らいし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
柳ゑ　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし

十三

ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし

廿三　夕雲

小ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし
ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし　ゑしわし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四　さうこう

五　屋うき木

[illegible]

六　面影まや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏乃物語を見るに色こゝろもなく
ちとのゝ思へるなひ[illegible]の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いたと一ぱいとりあつまる
初ゑの人をみるのまなかやとりこへ
ゑりすりすりすりすりすりすりすりすりすり
ゑんぬうまくなりなりなりなりなりなり
ぬしあるうくなりなりなりなりなりなり
ゑくとしなりなりなりなりなりなりなり
まりこ四ひなりなりなりなりなりなりなり
乃ぬりりりりりりりりりりりりりりりり
なりなりなりなりなりなりなりなりなり
とりりりりりりりりりりりりりりりりり
やくゑ嘉月乃中ゑ五日より三ぬりなり

一 まりぬりなりなりなりなりなりなりなり
四月より今日の人をて乃中 ゆりなりなりなりなりなり
二月きりに ゑりりりりりりりりりりりりりりりり
ゑりりりりりりりりりりりりりりりりり
三 ゑりりりりりりりりりりりりりりりりり
ゑりりりりりりりりりりりりりりりりり
四 ゑりりりりりりりりりりりりりりりりり
ゑりりりりりりりりりりりりりりりりり
五 ゑりりりりりりりりりりりりりりりりり
ゑりりりりりりりりりりりりりりりりり
ゑりりりりりりりりりりりりりりりりり

六　あつむ　源氏十二にて　うねりあり　その和　巻の
うをさしあつめひのうへのすゝまいらせたまふ
ゆひわりなどの八月十五日なり
七　さうず　高とのの四じゅう　新高とうり　牛角の時の
高よきさうりとすゝめたまふ　ゆきのしらゝ
ひとの月せうし
八　ものがたり　ゆきゝ中川へいそのゆかりとそうく
まゐる
九　ゆきゝ　とまのう
十　あゝ　夜のつゆわりなく　ゆきゝ　ありてあり
ちうのまわりわしのうへもしらわかまつ

十一　月とつゝ　ときのあり　ものがたりゆきゝ　すみのう
十二　ものがたりゆきゝ
十三　まつりをあゝのうへのうりうりなび　大井川へうりう
すみのひとくゝ　ゆきゝ　ひなつ　かつらのさとにまを
あつまり
十四　うすもの　やく　夫の夜うちつかのすゝまいらせり
くれなゐ
十五　明かり　ゆきゝ　うゑくの四人ばかりのすゝ
十六　みなゝ　ゆきゝ　ゆゝ　ゆきゝ　とゝ　六とう　寅
四とうもとこの　うつりうくのあとうしう
十七　四きの　こうとのゆゝ

十七 [illegible]

十八 [illegible]

十九 [illegible]

廿 [illegible]

廿一 [illegible]

廿二 [illegible]

廿三 [illegible]

廿四 [illegible]

廿五 [illegible]

廿六 [illegible]

廿七 [illegible]

二 志井うりとうたくい 姉の比ひてくみてと
とわんまれうらひてつまつかと 紙り白そうの
まとしかくめつ
四 さうらひ 白髪のひとへ ひとり
さうらひとをけこまくふとものふたり
五十うき中のさんへ 紙うといとまれた
紙うのつこと中の君ありをまへ 合わさうの
ありてわうのくまとてふをまとのまこの
わさうかわうとう
六 わつまや人の名たうとのうたひまあり
高うひのうとるひまをわこうう 高ううう

わとうの名のうまへ名とあつまやはうき
高のうひてうひ わるをひうう
七 ううをへしわつ ひわうしみんきをくつを
をんわくうれうくてをうとをう
八 のをつうをあうかうをくうをしのを
九 てうういうをあつうをあつて
わくをてういしつのう
十 義のうきりをへしのうをくさうるゆあの
はまりてうひのうを日をくとひりて
くんうをつ

人ねのかりの床ちんえんやのそらとすまうこころも

人しれぬまより　竹かさそうそく　世のもしけくみうと

ゆるせしいつりのうらうさきなさそてかぜさうあり　竹ちん